

子どもたち主体の「必要感」のある授業の「流れ」

学習過程の作成

○運動の「課題」や「発達段階」をアンケート等用いて「児童の実態」を把握し、「ゴールの姿」を明確化し、「評価計画」を作成する(本校年間指導計画の積極的な活用)

単元の目標	(1) ボートゲームの楽しさや難しさに興味、そのやり方を知るとともに、簡単なゲーム操作と決められたルールによって、楽しいゲームをするようになること。 (2) 知識や経験によって、簡単なゲームの楽しさを伝えること。 (3) 仲間と協力して楽しむこと。
単元の評価規準	知識・技能 ① ボートゲームのやり方について言ったり、書いたりしている。(B) ② ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (C) ③ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (D) ④ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (E) ⑤ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (F) ⑥ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (G) ⑦ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (H) ⑧ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (I) ⑨ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (J) ⑩ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (K) ⑪ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (L) ⑫ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (M) ⑬ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (N) ⑭ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (O) ⑮ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (P) ⑯ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (Q) ⑰ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (R) ⑱ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (S) ⑲ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (T) ⑳ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (U) ㉑ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (V) ㉒ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (W) ㉓ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (X) ㉔ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (Y) ㉕ ボートゲームの楽しさを伝えることができる。 (Z)

単元終了後は○○になってほしいね。
○○ができるようにしたいね。

知・技 思・判・表 態度	指導と評価の計画の表
--------------------	------------

単元終了後の「ゴールの姿」

経験が浅いから
始めは「態度」かな。

この辺で「技能」が身に付くと、き
っと○○を思考して考えるよね…。

ゴールの姿の実現の
ために「ストーリー」を
考える！！

忘れてはいけない「楽しさ」や「喜び」。積み重ねていく学習過程

本校「年間計画」及び「体育科ファイル」を有効に活用を！

導入

- ・集合・整列・あいさつ・健康観察
- ・準備運動 ※運動によってテンポを変え、部位を伸ばす。
※手拍子、太鼓、笛を単元や場面によって使い分ける。
※一つ一つの運動を「正しく」行うよう、声をかける。
※指導案に記載する。

- ①ジャンプ・・・・全身の力を抜きリラックスさせた状態で行う。
- ②屈伸・・・・かかとを着けて顔を前に向け、おしりが上下にしっかり動くように行う。
- ③伸脚・・・・足の裏をしっかりと着け、リズムよく押して行くようにする。
- ④深く(伸脚)・・・・手は前で組み、かかとを着け、つま先が上を向くように行うようにする。
- ⑤前後屈・・・・脚を開き、3で地面に手の平を着き、後ろの人が見えるところで止め、7で元の位置に戻るようにする。
- ⑥アキレス腱・・・・両方のつま先が前を向くようにし、かかとが着いた状態で行えるようにする。腕のストレッチは腕が下がらないように気をつけながら行えるようにする。
- ⑦手首足首・・・・同じ方向だけの回転にならないように声をかけて、柔らかくなるようにする。
- ⑧首回し・・・・手を腰に当て、首の可動域が広がるようゆっくり行えるようにする。
- ⑨腕回し・・・・手を軽く握り、ひじを伸ばして行い、肩の可動域が広がるようにする。
- ⑩肩、肘のストレッチ・・・・可動域が広がるようゆっくり息を吐きながら行えるようにする。

- ・補強運動(必要に応じて)
- ・感覚づくりの運動
※主運動につながる「感覚」が身に付くような運動を行う。(ゲーム的要素を取り入れるなど、楽しく運動している中で気が付くと基礎感覚が身に付いているようにする。)

・子どもにとって「**必要感**」のある**ねらい**(課題)の設定

「**必要感**」とは…めあてを達成したい、運動したいと思えるようにすること

○子どもたちと共に「**練り上げる**」

→(前時の振り返りや体育ノートの記述、個々の動きなどから)

前回どうだった? 今何が**必要**? **どんな運動**がしたい? …など子どもたちとの**やりとり**を大切に!

○子どもたちの「**言葉**」でつくる→(教師が提示せず、**記述する**)※但し、実態に応じる

今日は○○と○○だね。○○な練習をしたいんだね。…子どもたちから出た言葉は、実は教師が立てていた「ねらい」の言葉に合うように

○**知識・技能**

⇒「～をできるようにしよう」「○○で技を決めよう」「～で動こう」
立っている

○**思考・判断・表現**

⇒「～を考えよう」「どうすれば○○になるだろう」

○**主体的に学習に取り組む態度**

⇒「～を楽しもう」「進んで○○に取り組もう」

○子どもたちが「**主体**」→(必要感のある声かけから、主運動へ)

今みんなには必要だね。みんなで立てためあてだからやってみようか。

めあてを立てるには
時間がかかるがその
分「**質の高い運動**」を
行えばいい

・主運動→運動領域で流れが変わる。

※ペアで行うのか、グループで行うのか。兄弟チーム、リーグ戦なのか。

「**ねらい**」が「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」によって、**授業の声かけも変わります!**

○**知識・技能**

⇒「**称賛**」「**技のポイントや指示**」「**矯正的な声かけ**」など

○**思考・判断・表現**

⇒「**称賛**」「**どうしたら…のような考えさせる声かけ**」など

○**主体的に学習に取り組む態度**

⇒「**称賛を中心に、5つの態度の種類に合った声かけ**」など

※「**主体的に学習に取り組む態度**」は5つの態度に分かれる。

「**愛好的態度**」「**公正・協力**」「**責任・参画**」「**共生**」「**健康・安全**」

・**ねらい**(課題)に正対した「**ふりかえり**」

○今日のねらいに対して、①**自分**はどうだったのかを振り返る→(体育ノートに記述)

ねらいを達成できた? なぜ? 次の自分の課題は?

○今日のねらいに対して、②**教師**はどうだったのかを振り返る→(全体での声掛けなど)

達成できた人? ○○ができていたね。○○は良かったね。…ねらいに沿った振り返りを行う!

「**知識・技能**」ならそれに対する**振り返り**、
「**思考・判断・表現**」ならそれに対する**振り返り**、
「**態度**」ならそれに対する**振り返り**をする

○今日のねらいから「**次時へ**」つなげる

次はどんな練習が必要? 次はどんなことをしたい? 次はどうやろうか?




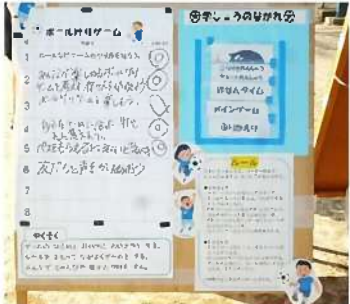

展

開







整

理



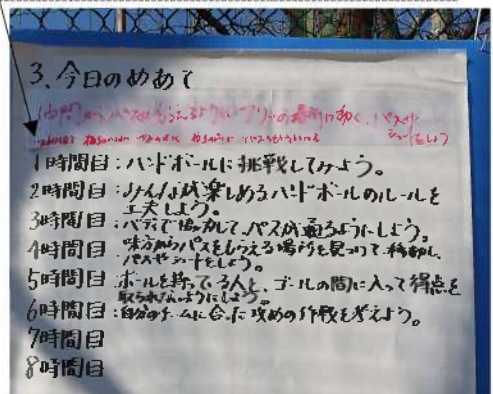

子どもにとって「必要感」のあるねらい(課題)の設定の例(授業実践より)

		2年 ボールけりゲーム (R1, I, 3I)
ね ら い	前時	パスをもらえるところに いきましょう。
	本時	友だちと声をかけあおう。
「 ね ら い を た て る 流 れ		<p>感覚づくりの運動後、集合。 前時の振り返りと今日の課題の確認。 T:「きょうのねらいは どうしようか。」 T:「みんなは いつもなんのために練習をしているのかな。」 C:「点を取るため。」 T:「そうだったね。前は点を取るために、パスをもらおう。(パスが通ると点が入るルール) といっ てパスをもらえる場所に移動したね。そして、みんな考えて移動できるようになってきたよね。」 T:「じゃあ あとは勝つためにどんなことをしたらいいと思う？」 C:「友達のところに動く…あ」 C:「それは移動じゃない？」 C:「そっか。」 T:「何が必要なんだろうね。」 C:「チームワーク！」 T:「なんでチームワークなの？」 C:「点を取るため。」 T:「そうか。点を取るために、勝つためには、チームワークが必要なんだ。チームワークを高めるた めにはどんなことをしたら良いんだろう。」 C:「声掛け！」 T:「なんで声掛けが必要なのかな。」 C:「意味は分からない。」 T:「でも声を掛けたらチームワークは良くなるって思ったんだね。」 C:「うん。」 T:「じゃあ どういう声掛けが必要なのかな。」 C:「がんばれ。ナイスとか。」 C:「褒め言葉。」 C:「ドンマイとか。」 T:「いいねえ。がんばれ、ナイス、ドンマイとかって声を掛けたらチームワークが良くなりそうだよ ね。でもこれって、みんなが集めてきた言葉の宝箱だよ。ナイスやドンマイはチームワークを もちろん高めてくれるけれど、点を取るためってなるとどうなんだろう。どんな言葉だと点につ ながるのかな。」 C:「がんばれ。」「できるよ。」 T:「じゃあさ、もし、上手くボールを蹴れない仲間がいたらどうする。」 C:「がんばれ。」 T:「うんうん、ボールってどうやって蹴ると良いんだっけ。」 C:「アドバイスか。」 T:「そうそう。どんなアドバイスがあるかな。」 C:「こうしたらいいよ。」 C:「足のここので蹴ったらいいね。」 T:「なるほどね。動けないで止まっている人がいたらどうしよう。」 C:「こっち こっちっていう。」 T:「いいねえ。そうそう。今日は言葉の宝箱で集めたチームをよくする声掛けとチームの動きが良く なる声掛け、「こっちにいったらいいよ」「こうやってうごいたらいいよ。」「こうやって蹴るん だよ」っていうアドバイス。今日はアドバイスと励ましを頑張ってみましょう。はげましは良くで きてきているけど、アドバイスって難しいよね。今日のねらいは・・・」</p> <p>掲示のねらい用紙に書きこむ 「きょうのねらいは『友だちと声をかけあおう。』です。」 T:「声掛けって何と何？」 C:「アドバイスと励まし！」 T:「では、アドバイスと励ましの声掛けをがんばっていきましょう。」</p>
		
		
		
		
		
		前時の振り返りからの入り 子どもたちとの話し合い ねらいとなる言葉を整える

子どもにとって「必要感」のあるねらい(課題)の設定の例(授業実践より)

		4年 ベースボール型ゲーム (R2.11.12)
ね ら い	前時	ボールの飛んでくる方向に移動しよう。
	本時	相手に得点を与えないように、守る隊形を考えよう。
ね ら い の ね ら い を た た え る 流 れ		<p>○前時終末の振り返りの様子</p> <p>T:「今日のねらいは『ボールの飛んでくる方向に移動しよう』だったね。」</p> <p>「移動できた?」←挙手多い</p> <p>「じゃあ、得点は減った?」←挙手少ない</p> <p>C:「少し減ったけど、まだけっこう点が入った。」</p> <p>T:「なんでそんなに得点が減らなかったのかな。」</p> <p>C:「守備の並び方がよくない。」</p> <p>C:「みんながかたまってる。」</p> <p>C:「投げたいところに人がいなかった。」</p> <p>C:「みんなが動かなかった。」</p> <p>T:「じゃあ、どうすればもっと点数を減らせるかな?」</p> <p>C:「みんなで話し合う。」</p> <p>T:「どんなことを話し合えばいい?」</p> <p>C:「守備がどこにいればいいか考える。」</p> <p>C:「守備の守る形を決めたい。」</p> <p>T:「じゃあ次回は、守備の守る形、守備の隊形をみんなで考えてみよう。」</p> <p>○本時のねらい(感覚つくりのあと集合)</p> <p>T:「この間やった時は、ボールの正面に入ってとったけどうまくいかなかった人がいたみたいだね。」</p> <p>C:「うまくいかなかった。」</p> <p>C:「正面には入れるようになったけど、パスがうまくいかなかった。」</p> <p>C:「投げたいところに人がいなかった。」</p> <p>T:「そうだったね、じゃあ得点を与えないようにするには、みんなで何を考えたらよいかね。」</p> <p>C:「どこにだれがいればよいか考える。守る形を考えたい。」</p> <p>T:「たしかにそうだね。それでは、今日は相手に得点を与えないように、守る隊形を考えていこうか。」</p> <p>「作戦をよーく考えて、チームで話し合ひましよう。」</p>
		
		
		
		
		
		
		<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふり返りからの入り ・チームごとでの話し合い ・チームごとの必要感を引き出す ・ねらいとなる言葉を整える

子どもにとって「必要感」のあるねらい(課題)の設定の例(授業実践より)

		6年 ハンドボール (R1. 1. 31)	
ね ら い	前時	自分のチームに合った攻める作戦を考えよう。	【思考・判断・表現】
	本時	味方からパスがもらえるように、フリーの場所に移動し、パスやシュートをしよう。	【技能】
「 ね ら い 」 を た て る 流 れ	○ 本時のねらいを確認する。		
	T:「前はチームごとに攻める作戦が考えられましたね。」 「上手いったチームは？」 ← 挙手少ない T:「なんで?上手いかなかったの?」		
	C:「作戦はできてるんだけど、点数が入らないんだ。」		
	T:「そういうチームはどれくらいいますか?」 ← 挙手多い		
	T:「昨日の体育ノートに〇〇さんが『作戦はうまく行ったけど、パスが取れなかった』と書いていたよ。あとは、□□さんは『作戦通りに動けたけどパスがもらえなかった』とも書いていたよ。」 T:「では、今日はみんなやチームではどんな練習が必要なのかな?チームで話し合ってみようか。」		
	T:「それでは、赤チームからどんな練習が必要か発表してください。」		
	C:「パスが出せるように、パスの練習をもっとしたい。」		
	C:「パスがもらえるところに動く練習がしたい。」		
	C:「パスからシュートにつなげる練習をしたい。」		
	C:「味方同士どこでパスをもらうか連携する練習が必要。」		
T:「なるほど…。みんなは、昨日の作戦を得点につなげるために、パスをしっかり取ってシュートに繋げたいんだね。」			
T:「では、今日のみんなが必要なことは…、 まず『仲間からパスがもらえるように』ということだね」 ↑ねらいを途中まで書く			
T:「仲間からパスがもらうには、自分がぼーっと立ってるままでのいいの?」			
C:「動かなくちゃダメ。」			
T:「ほほう。どんなところに動けばパスしてもらえるの?」			
C:「相手がいなくて。」			
C:「フリーの場所。」			
T:「そうだね。フリーって言葉いいですね。」			
T:「では、まとめると…『仲間からパスがもらえるように、フリーの場所に動き、パスやシュートをしよう』というのはいかがでしょうか?」 ↑ここから続きを書く			
T:「では、今日のみんなにとって必要な運動をするために「ねらい」ができたね。」			
T:「今日は、フリーの場所に移動して、 確実にパスがもらえるようにしていこう。」			
<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふり返りからの入り ・子どもの体育カードの感想の活用 ・チームごとでの話し合い ・チームごとの必要感を引き出す ・ねらいとなる言葉を整える 		掲示板を活用する子供の姿	